

事業を通じた価値創造

大建工業グループは、さまざまな社会課題やニーズに対し、独自の素材や技術を活かした事業活動を通じて、社会への価値を提供しています。

01 国産木材の活用促進



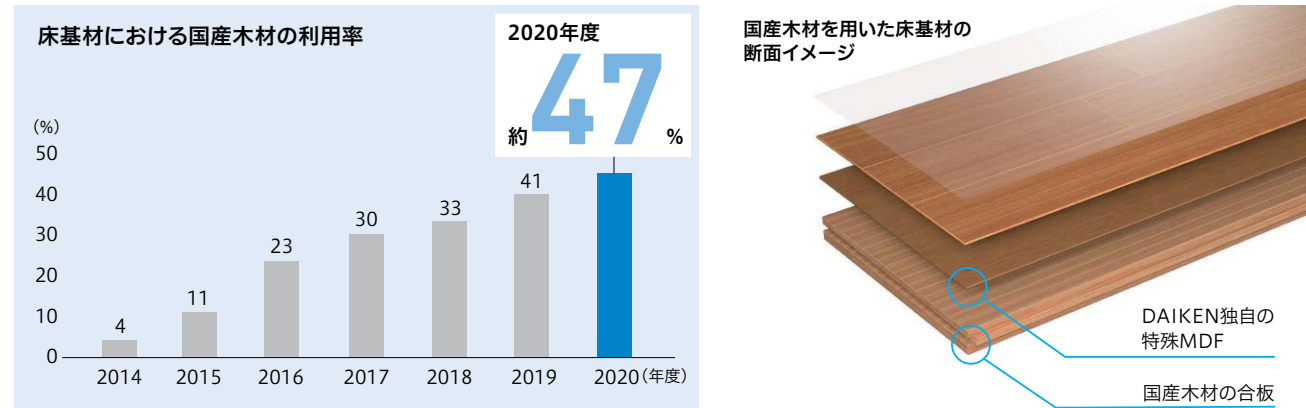
耐水性に優れた特殊MDFで国産木材の活用を促進

社会課題・ニーズ

日本は国土の約3分の2が森林で覆われる世界有数の森林大国です。CO₂の吸収や土砂災害防止など、さまざまな機能を果たす森林を健全に育てるため、国産木材の積極活用が求められており、政府は2025年までに木材自給率を50%に高めることを目指しています。

DAIKENの強みと価値創造 1

床材のトップメーカーとして培ったノウハウと、耐水性や表面の平滑性に優れたDAIKEN独自のMDFの技術を活かし、国産木材を用いた床基材の開発を進め、その後も改良を重ねてきました。2014年度には4%程度だった床基材の国産木材利用率が、2020年度には新たに主力製品で切り替えを進めたことなどにより、約47%まで高まっています。今後も国産木材の魅力を引き出す製品開発を進め、さらなる活用促進を図っていきます。



木材硬化技術で国産木材の活用シーンを拡大

DAIKENの強みと価値創造 2

木材組織にプラスチック樹脂を注入・充填して硬化させるDAIKEN独自のWPC*技術により、国産天然木を表面化粧材に用いた、優れた表面硬度を持つ床材の提供が可能になりました。国産樹種の多くは軟らかい材質であるため、床材として使用するには耐久性が低いことが課題でしたが、この技術を活かし、地域材活用のニーズにも応えながら、国産木材の活用の幅を広げていきます。

※WPC=Wood Plastics Combinationの略

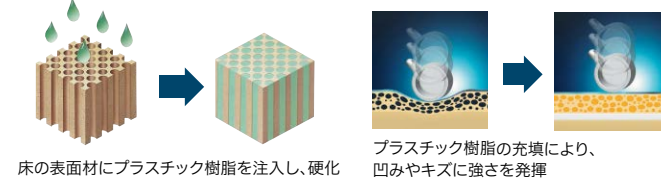
WPC技術による
地域材製品化実績

23 都道府県



WPC床材 採用事例

WPC技術の仕組み



02 木質資源の循環利用 / 03 CO₂の排出抑制



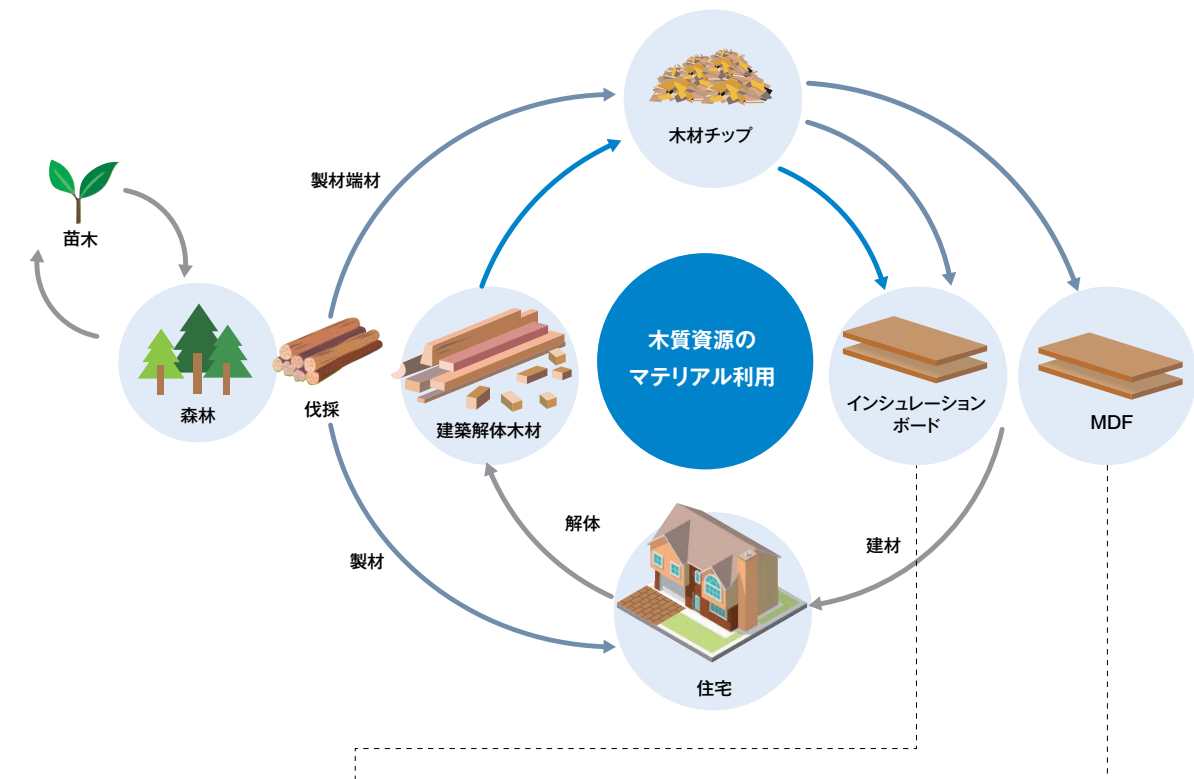
木質資源のマテリアル利用による炭素貯蔵期間の長期化

社会課題・ニーズ

SDGsやパリ協定などを背景に、限りある資源を有効に活用する循環型社会の形成や、地球温暖化に伴う気候変動への対策を着実に推進していくことがグローバルな課題となっています。

DAIKENの強みと価値創造

大建工業グループでは、製材の端材を原材料としたMDFや、従来は捨てられたり、燃料として使用されていた建築解体木材を再利用したインシュレーションボードなど、木質資源を有効活用した素材を製造しています。木材を燃やさずにできるだけ長期間マテリアルとして利用することは、廃棄物の削減だけでなく、炭素を木材の中で貯蔵し続けることになり、結果的に大気中へのCO₂排出抑制にもつながります。当社グループはこの機能に着目し、木質資源を無駄なくさまざまなシーンでマテリアルとして活用することにこだわり続け、循環型社会の形成、さらには地球温暖化の防止にも貢献していきます。



04 安全・安心・健康・快適な空間づくり



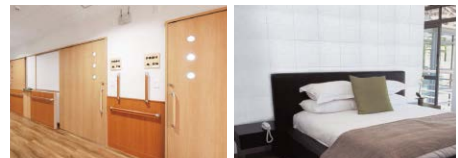
高齢者と一緒に安心して暮らせる空間づくり

社会課題・ニーズ

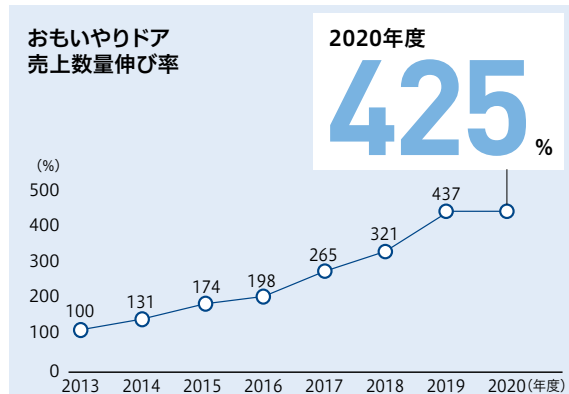
先進国の中でも急速に高齢化が進んでいる日本では、4人に1人が65歳以上という超高齢社会を迎え、2060年には高齢者人口が全体の約40%に達するとされています。老老介護の社会問題化も懸念される中、これからの住環境には、年齢を重ねても安全・安心・健康・快適に暮らすことができる空間が求められています。

DAIKENの強みと価値創造 1

これまでに培ってきた住空間の発想や技術を製品開発に活かし、高齢者の方だけでなく、家族や介助に携わる方も含めたすべての利用者の視点に立ったものづくりに取り組んできました。近年は、高齢者施設や在宅介護に配慮した住宅など、施設ごとに異なるニーズにきめ細かく対応できる仕組みを整え、多彩な製品ラインアップを展開しています。生活上の安全・安心はもちろん、会話の聞き取りやすさの向上や、ニーズが高まる抗ウイルスへの対応など、機能性も備えた製品を通じ、健康で快適な空間の創造を追求していきます。



高齢者の方の暮らす住空間向け建材「おもいやりシリーズ」快適な室内環境をつくる調湿壁材採用事例
さらりあ〜と



2013年度のおもいやりドア売上数量を基準として算出しています

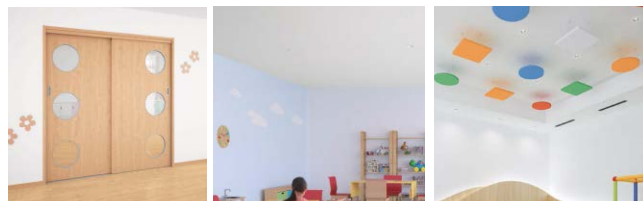
子どもたちが安全に過ごせる空間づくり

社会課題・ニーズ

近年、女性の就業率の上昇に伴い保育施設への入所申し込みが増加し、これまで以上に0~3歳児を預けるケースが増える中、保育施設には、より安全性や環境面に配慮した設計が求められています。また、保育に携わる人材の不足は近年の待機児童問題の大きな要因の一つとされ、保育士の負担軽減や働きやすい環境づくりへの対応も急がれています。

DAIKENの強みと価値創造 2

保育施設の中でも特にけがのリスクが高いドア周りに求められる性能を徹底的に考え、これまでの住宅や高齢者施設向けのドアづくりで培ったノウハウを活かしながら、幼稚園・保育施設向けに特化した「おもいやりキッズドア」を開発しました。また、音の響きを和らげる吸音性能を付与した製品により、聴覚や言語の発達時期にある子どもたちが最適に過ごせる空間を提供しています。安全性や快適性の向上、さらには保育士の負担軽減に向け、保育施設に求められるさまざまな課題解決を、DAIKEN独自の技術と多彩な製品でサポートしていきます。



おもいやりキッズドア 子どもたちが使うことを想定し、安全面に配慮したドア
スクールトーン 優れた吸音性と調湿性能、ホルムアルデヒド吸着性能を付与した高性能天井材
キントーン 色・形状の特注が可能な天井用吸音パネル



『キッズデザイン賞』受賞

おもいやりキッズドア(2017年度) こち和座 置き敷きタイプ(2016年度)
※「子どもたちの安全・安心に貢献するデザイン部門」

05 未利用資源の有効活用 / 06 耐震化の推進



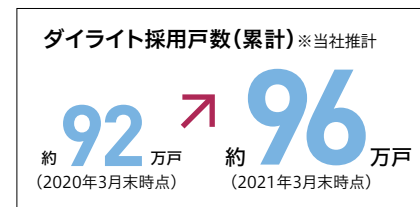
耐久性に優れた不燃素材による木造住宅の耐震化の推進

社会課題・ニーズ

日本は阪神・淡路大震災や東日本大震災をはじめとして、これまで幾度となく地震による大きな被害を受けてきました。近い将来にも、首都直下型地震や南海トラフ地震などの巨大地震が高い確率で起こると予測されており、政府も耐震化率の目標を掲げ、住宅や建築物の耐震化を後押ししています。

DAIKENの強みと価値創造

従来の無機質素材では実現できなかった、軽量、高強度、高耐久、防耐火、加工性など、耐力面材に求められるすべての性能を備えた世界初の新素材「ダイライト」を、未利用資源であるシラス(火山灰)を主原料に用いて開発。未利用だった資源に価値を見だし、製品としての用途を広げることで循環型社会に貢献するとともに、無機系の木造住宅用耐力面材のトップブランドとして浸透することで、日本の木造住宅の耐震性能向上に貢献してきました。また、既存住宅の耐震改修に対応した製品展開も図り、さらなる木造住宅の耐震化を推進していきます。



耐力面材ダイライトMS
ダイライト耐震かべかべ大将
自然界に存在する未利用資源「シラス」

07 省施工製品及び工法の開発



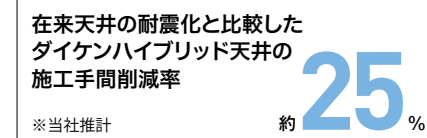
省力化工法の開発により天井耐震化に貢献

社会課題・ニーズ

少子高齢化に伴う生産年齢人口の減少に加え、復興事業、各種再開発プロジェクトなどにより、建設業界では人手不足が深刻化しています。また、東日本大震災後の建築基準法改正では、大型公共建築物などの天井に、より高い耐震性能が求められるようになった一方で、既存の在来天井の耐震化には大きな施工手間がかかるという課題がありました。

DAIKENの強みと価値創造

東日本大震災以降、特に、大型公共施設等の天井耐震化のニーズに応えるため、省施工・短工期で耐震化が可能な独自の天井工法「ダイケンハイブリッド天井」を開発しました。この工法により、在来天井を耐震化する場合に比べ、約25%の施工手間を削減することが可能となりました。さらに、災害時には避難経路となる廊下専用の天井システム「マモローカ」も開発しました。天井に限らず、リフォーム用建材などでも新たな工法の開発という切り口で、さらなる省施工の実現を目指していきます。



ダイケンハイブリッド天井
吸着フローリング 短い工期で簡単に施工が可能なリフォーム用床材
MISEL(ミセル) 下地工事を省略し、工期が短縮できるオンボード工法に対応する壁面収納